

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

2025/08/28

SAH×大学入試総合型・学校推薦型選抜で活かす！

夏休み期間に教頭研修会があり、中山芳一先生の講演を聴いてきました。その中で、SAH の取り組みを“出口”の大学入試で使えるし、都内のトップ私立校は「探究」を中心にして総合型・学校推薦型選抜で合格を勝ち取る戦略になっている。地方が後れをとってはならない、という話をしてくれました。本校でも、「総合的な探究の時間」の授業において、生徒それぞれでテーマを決めて「探究」活動を行っています。ましてや、SAH の旗のもと積極的・主体的に動いたあなただけの「ストーリー」を紡ぐことができる環境にあります。「探究」や SAH での取り組みがあなただけのストーリーとなり、それが大学入試の総合型・学校推薦型選抜で評価されるわけです。この点における中山先生のメッセージを要約しました。(編集 教頭)

1. 教育の方向性の変化

2017 年の学習指導要領改訂以降、「学びに向かう力・人間性等」が重視されるようになった。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」と並んで、この 3 つが三位一体で育成されるべきという考えが定着し、高校は 2022 年度から全面実施。

2. 大学入試改革と総合型・学校推薦型選抜の台頭

総合型・学校推薦型選抜で取る枠(人数)が増えている。総合型では「経験・価値観・行動」「言語化能力」「将来展望」が重要。作文や志望理由書は「本物の経験に基づく論理」が必要で、作り物は通用しない。地域や学校によっては総合型を避ける傾向がまだ残っており、首都圏の私立と比べて情報不足が課題。その

格差を埋めるために、推薦入試のプラットフォームである「未来図 for School」を立ち上げた。実際に総合型・学校推薦型選抜で受験生が大学に出した「志望理由書」や「活動報告書」をデータベース化し、無料で誰でも見られる。

3. 非認知能力 (NQ) の整理と 3 分類

- ①自分と向き合う力・・・心の回復力(レジリエンス)、自制心、気持ちの切り替え
- ②自分を高める力・・・意欲、自己効力感、楽観性
- ③他者とつながる力・・・コミュニケーション、共感性、協調性

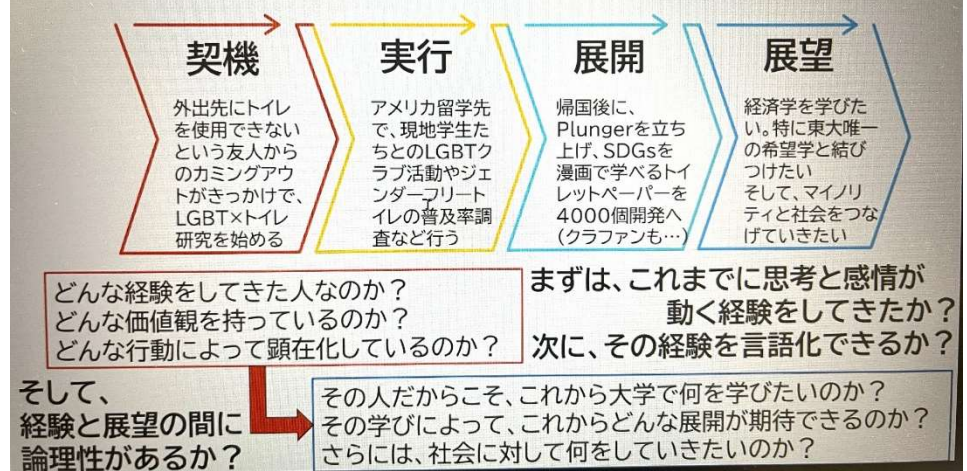
4. まとめ

非認知能力は状況や役割によって発揮される力が変化する。評価を数値化するより、日々の行動の変化や継続を観察し、育成的にフィードバックすることが重要。総合型選抜の時代では、この力の育成とアピールが大学進学にも直結する。

☆「探究」「SAH」と「総合型・学校推薦型選抜」については、すでに SAH ジャーナルで特集しています。もう一度チェックを。

★校長より★ 数年前より、大学入試で「年内入試の増加」が話題となっていました。総合型選抜や学校推薦型選抜の定員を増やすという流れですね。県内でも例えば、群馬大学共同教育学部では今年度より募集人員は少ないですが、一部の専攻で総合型選抜を開始しています。理科専攻などでは、プレゼンテーションのテーマとして「これまでに行った『探究活動』に基づいてテーマを設定してください。」となっており、探究活動が大学入試に組み込まれる動きが明確となっています。1, 2 年生も今のうちから志望大学の入試要項を見ておいてください。過去の入試との変化が見られるかもしれません。(校長 原 拓史)

その人の様々なスキルは「経験」によって伝えられる



▲中山先生の講演のテキストより 高校の「探究」や校外活動の学びをどう総合型・学校推薦型の入試につなげるか

- ・言語化することが大事
- ・「高校の経験を自分だけのストーリーにする＝自分事として語る」ことが大事
- ・高校の経験で「どんな力を得たのか」「どのような変容があったのか」「どのような壁にぶつかったのか」を語ることが大事
- ・大学への学びへの「展望」「つながり」を描くことが大事

「未来図 for School」のチラシ・二次元コード(QRコード)はクラッシーにて配信します。